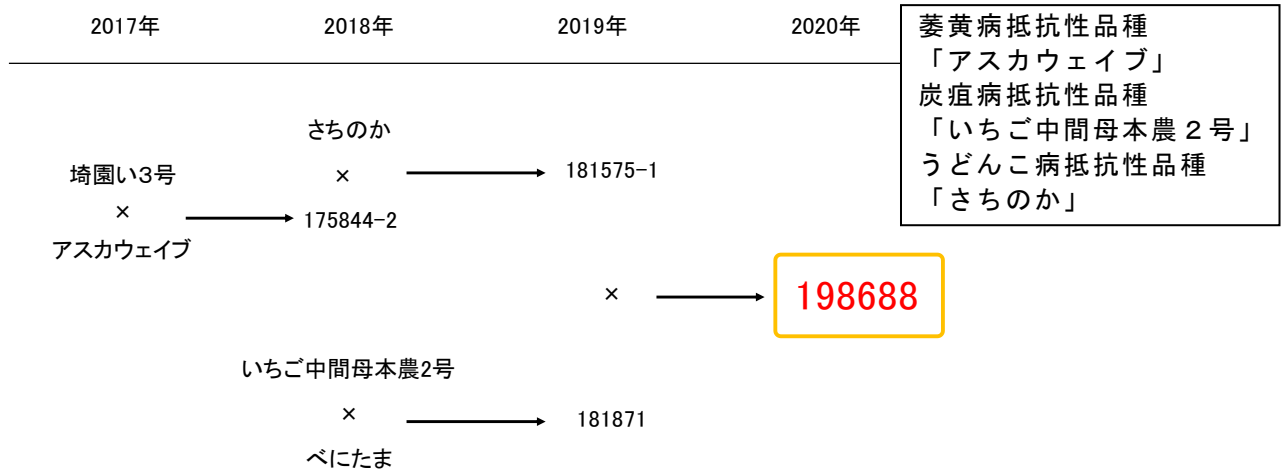


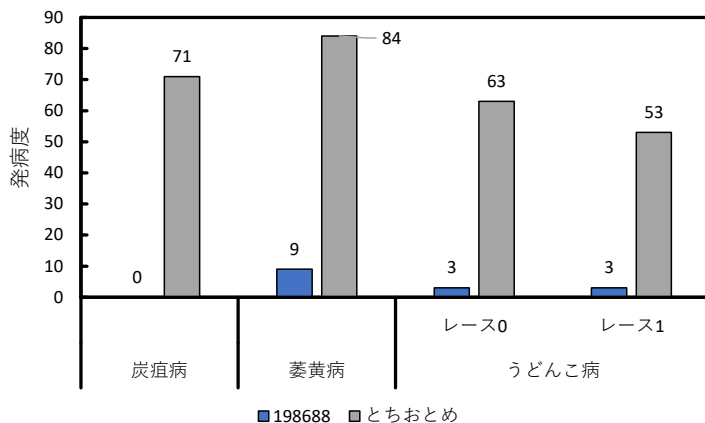
炭疽病、萎黄病、うどんこ病に強いイチゴ優良系統を育成しました

イチゴ栽培では炭疽病、萎黄病、うどんこ病は、株の枯死や果実品質の著しい低下を引き起こし、直接的減収を招きます。県内の主力品種である「とちおとめ」や「やよいひめ」は耐病性品種ではなく、県内各地で被害、減収が問題になっています。そのため、生産者は病害防除に多大な労力を要しています。そこで各病害に抵抗性を有する品種、系統を交配親として利用し、3病害に対して複合抵抗性を有する系統「198688」を育成しました。



系統「198688」の育成経過

各病害の抵抗性に関連した遺伝子マーカーの検定を行うことで、3病害抵抗性遺伝子を集積した系統「198688」を育成しました。



草姿は比較的コンパクト。果実の色は暗色の強い赤色が特徴です。

「198688」は各病害に対して高い抵抗性を示しました。本系統は果実品質に課題があるため、更なる優良品種育成のための交配母本として活用します。

本研究は、イチゴ属植物の炭疽病抵抗性関連マーカー・うどんこ病抵抗性関連マーカー（【特許第6253132号・特許第6566480号】国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構とトヨタ自動車株式会社の共同開発）、イチゴ萎黄病耐病性連鎖マーカー配列情報（栃木県開発）の技術を用いて得られた成果です。

(野菜育種担当 TEL 048-536-3090)